

## 焼岳の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

### <噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

焼岳では、山頂付近の緩やかな膨張が続いているなかで、昨日（23日）23時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しており、火山活動が高まっています。

このため、本日（24日）09時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）に引き上げました。

### 防災上の警戒事項等：

想定火口域から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。噴火時には、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。



図1 焼岳 噴火警戒レベル2に対応した警戒が必要な範囲（黄破線内）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。

## ○ 活動概況

### ・地震や微動の発生状況（図2、図3）

焼岳では、昨日（23日）23時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。

### ・噴気など表面現象の状況（図4）

噴気活動に特段の変化はありません。

### ・地殻変動の状況（図5、図6）

GNSS連続観測では、一部の基線で山頂付近の緩やかな膨張を示すと考えられる変化が継続しています。

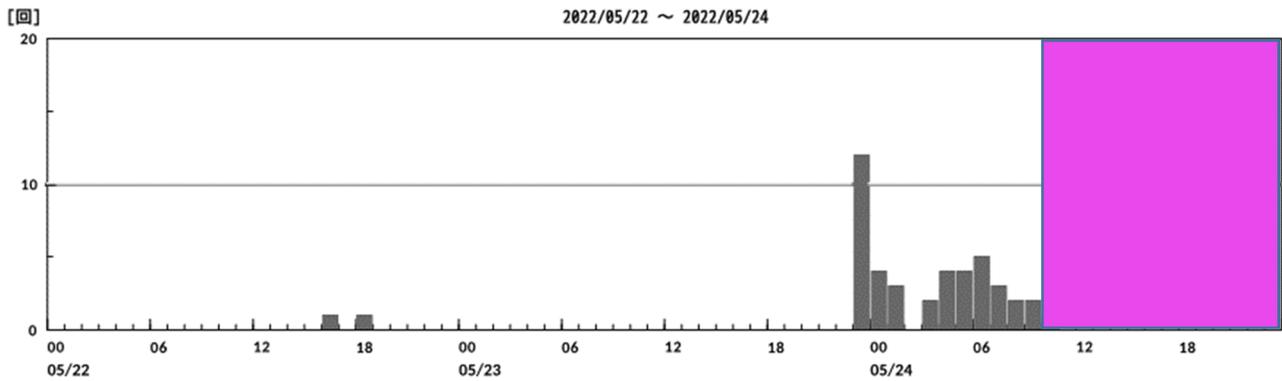


図2 焼岳 山頂付近の特別地震回数  
(2022年5月22日～5月24日9時)

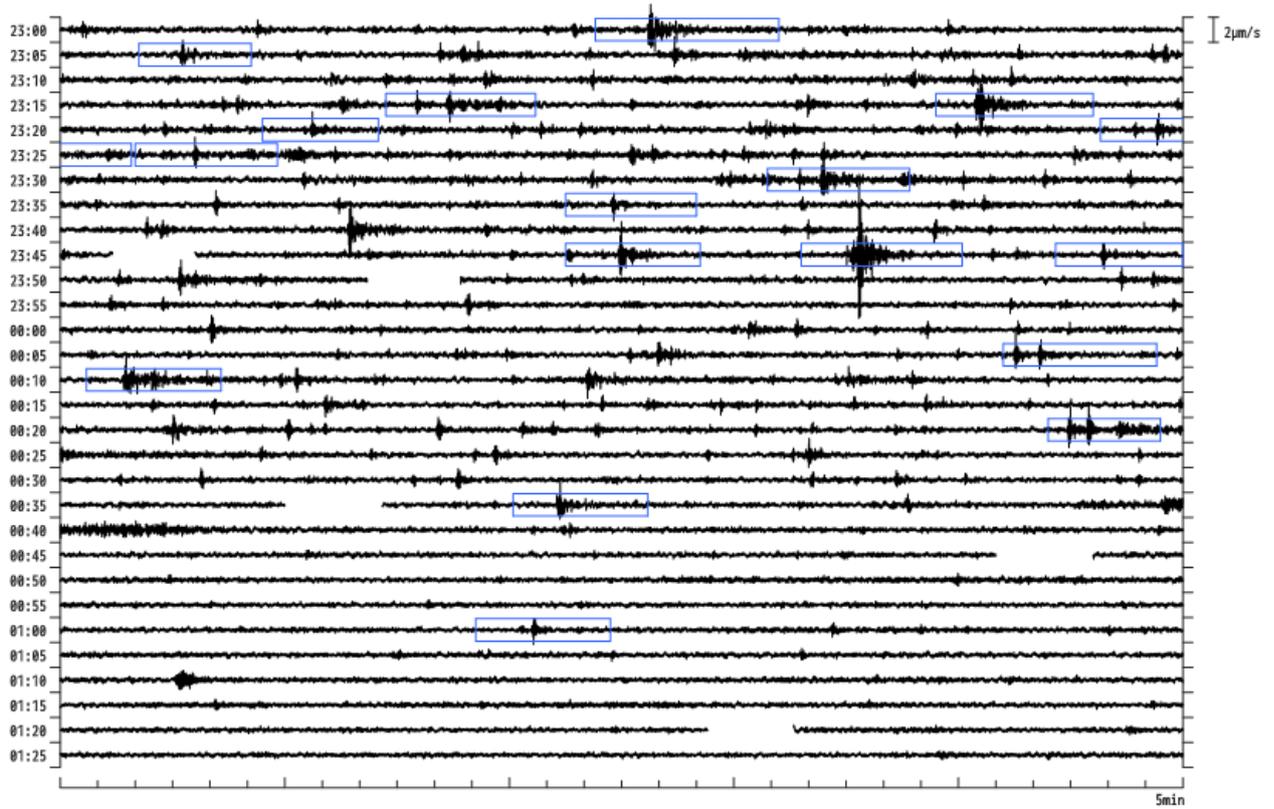


図3 焼岳 南峰南東観測点の地震波形  
(2022年5月23日23時00分～5月24日01時30分)  
23日23時頃から山頂付近を震源とする微小な火山性地震が増加しています。

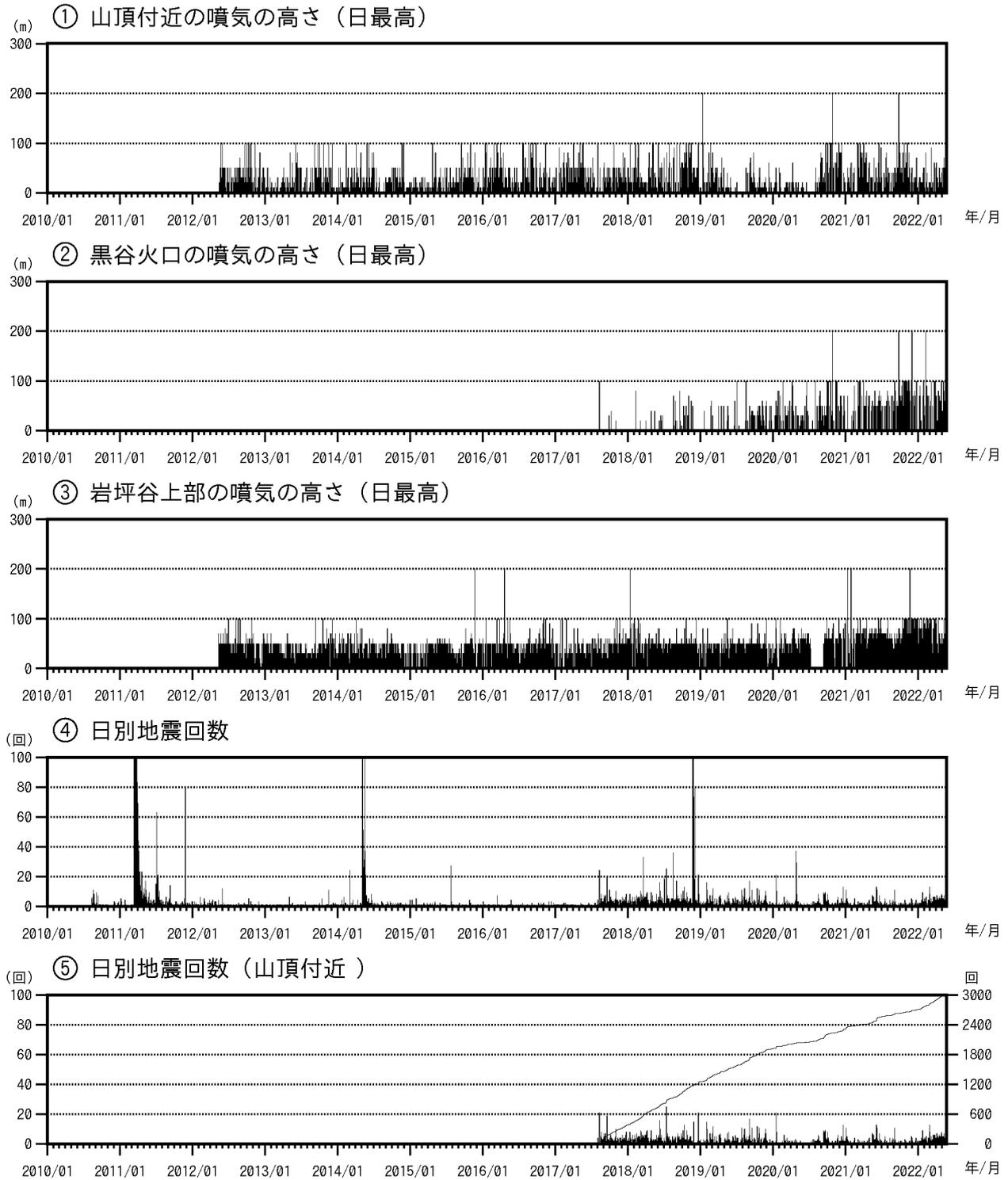


図4 焼岳 噴気の高さと地震回数の推移(2010年8月2日～2022年5月23日)

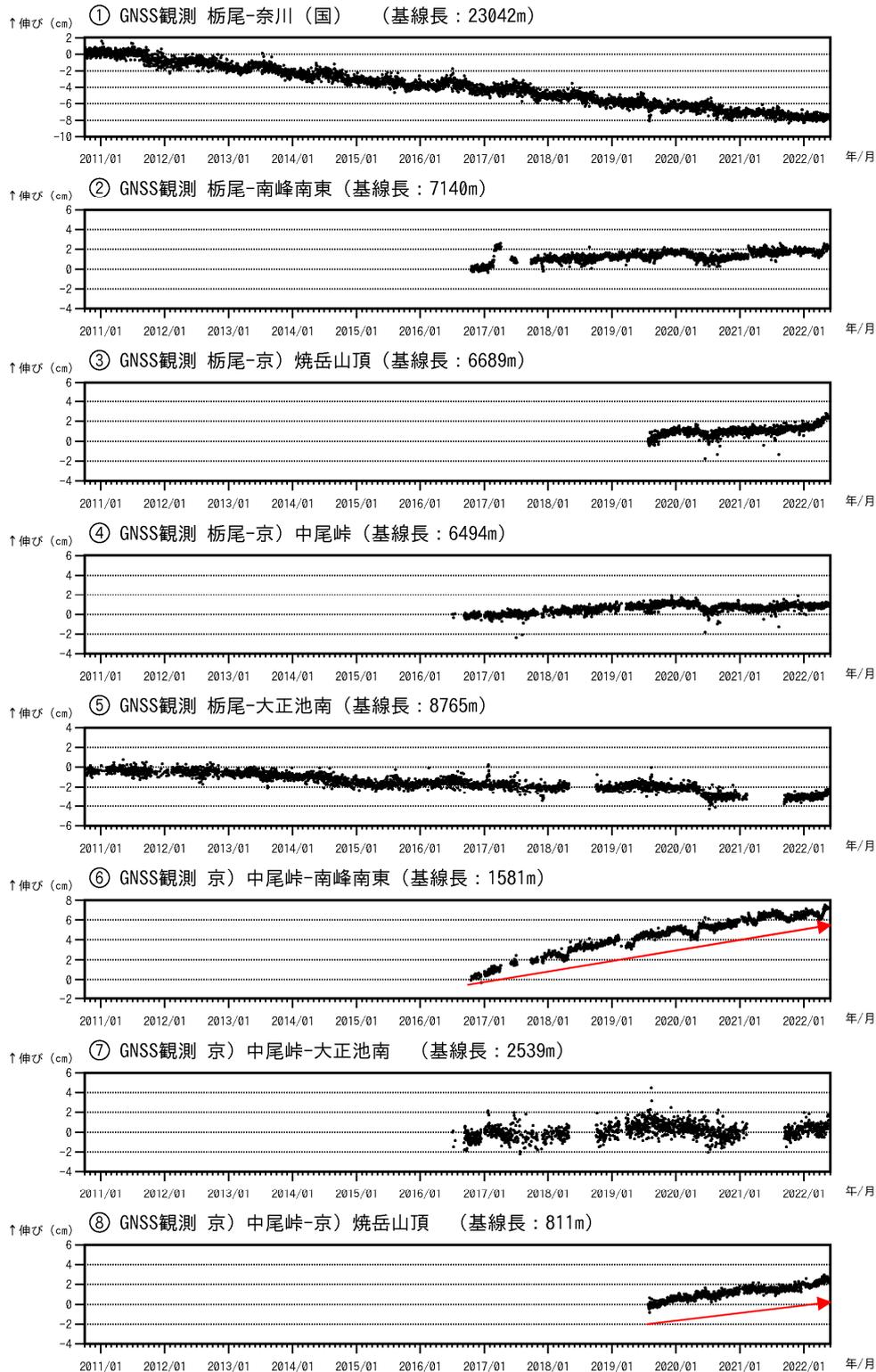


図5 焼岳 GNSS 連続観測による基線長変化 (2010年10月1日~2022年5月18日)  
図6のGNSS基線①~⑧に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。(国)は国土地理院、京)は京都大学の観測点です。

- ・⑥と⑧の基線では、山頂付近の緩やかな膨張を示すと考えられる変化が継続しています (赤矢印)

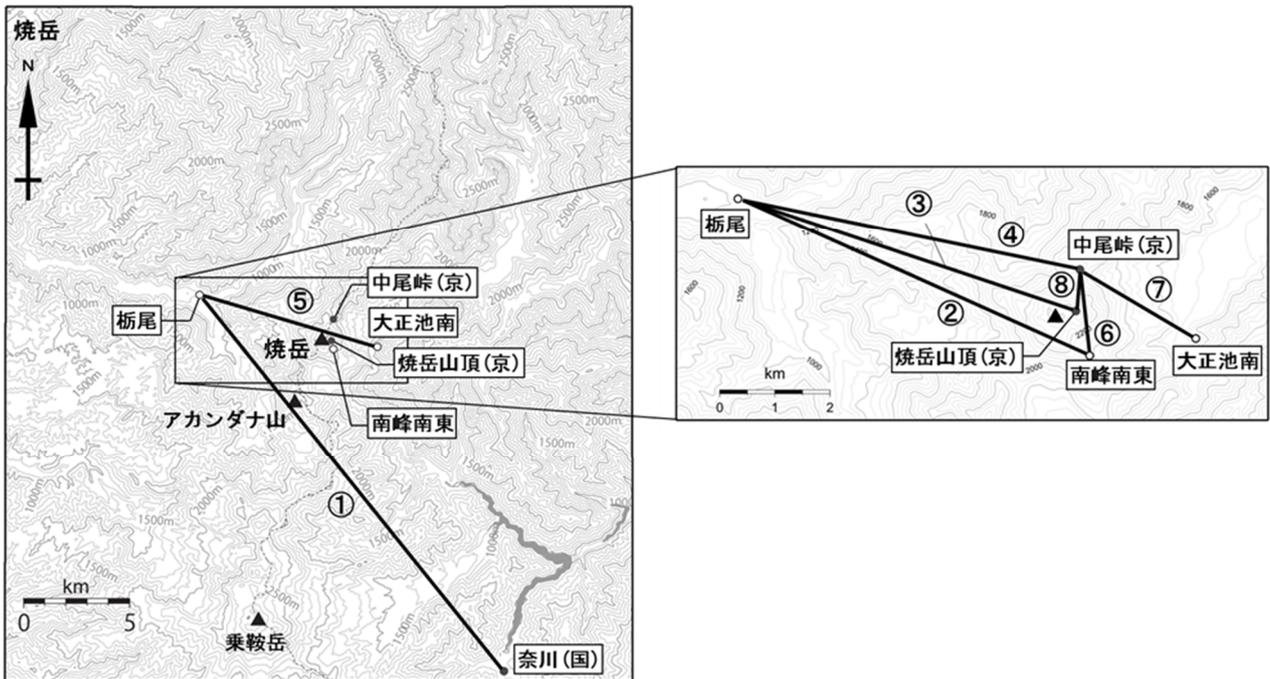


図6 焼岳 GNSS 連続観測点配置

白丸(○)は気象庁、黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
①～⑧は図5のGNSS基線①～⑧に対応しています。  
(国)：国土地理院、(京)：京都大学

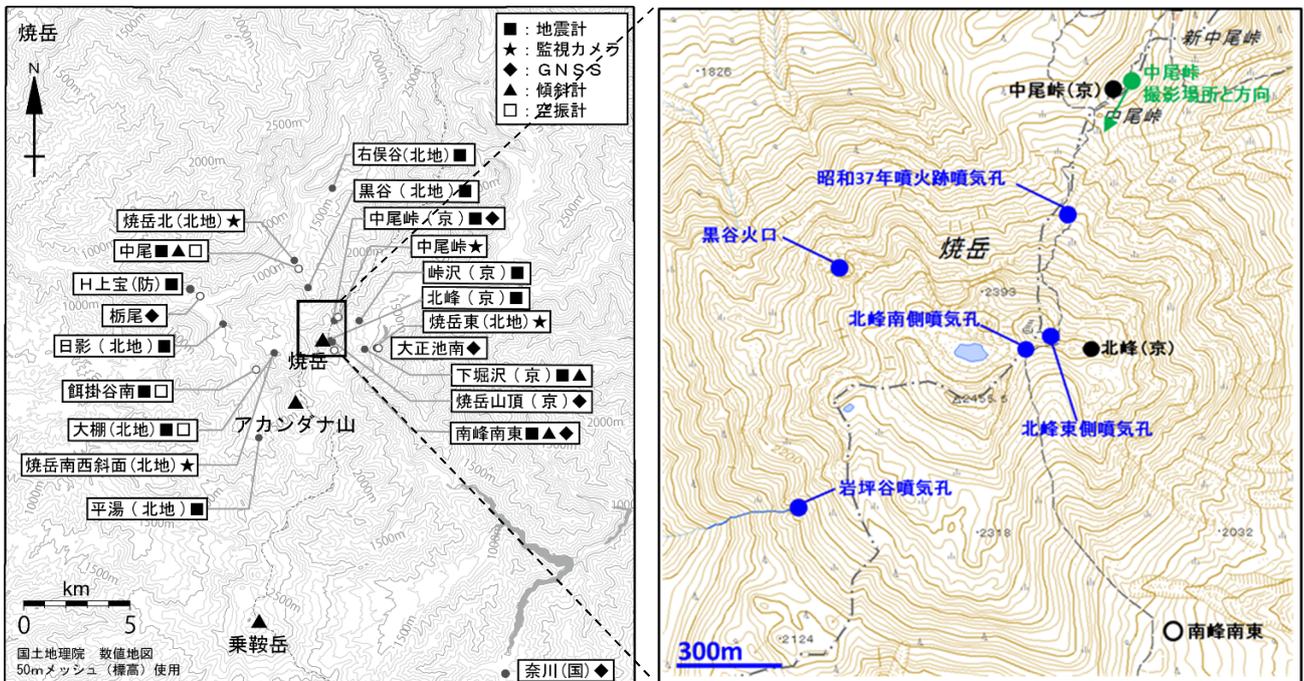


図7 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置

○は気象庁、●は気象庁以外の機関の観測点を示しています。  
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学、(北地)：北陸地方整備局